



株式会社荏原製作所

2024 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会

2024 年 11 月 14 日

イベント概要

[企業名]	株式会社荏原製作所		
[企業 ID]	6361		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会		
[決算期]	2024 年度 第 3 四半期		
[日程]	2024 年 11 月 14 日		
[時間]	17:30 – 18:29 (合計：59 分、登壇：33 分、質疑応答：26 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[登壇者]	2 名		
	執行役 CFO	細田 修吾 (以下、細田)	
	グループ広報・財務統括部長	大崎 晃裕 (以下、大崎)	



2024年12月期第3四半期 決算説明会資料 荏原（6361）

2024年11月14日

Looking ahead,
going beyond expectations
Ahead > Beyond

株式会社 荏原製作所

大崎：お待たせいたしました。本日はご多用のところ、株式会社荏原製作所の2024年12月期第3四半期決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより始めさせていただきます。私どもの出席者をご紹介します。CFO執行役、細田修吾でございます。

細田：細田でございます。よろしくお願いいたします。

大崎：司会はグループ広報・財務統括部、大崎が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日のスケジュールでございますが、決算概要を細田より説明させていただきます、その後に皆様からのご質問をお受けいたします。終了時刻は18時30分を予定しております。それでは細田より説明に入らせていただきます。

FY24 1-3Q 業績

	実績	前年同期比
受注高	6,436 億円	+452 億円 +7.6% ↗
売上収益	6,043 億円	+531 億円 +9.6% ↗
営業利益	598 億円	+28 億円 +5.0% ↗
営業利益率	9.9%	-0.4pts

FY24 通期業績予想

	今回計画	前期比	前回計画比*
受注高	8,650 億円	+444 億円 +3.0% →	+200 億円 +2.4% →
売上収益	8,420 億円	+826 億円 +8.9% ↗	+150 億円 +1.8% →
営業利益	870 億円	+9 億円 +1.1% →	-
営業利益率	10.3%	-1.0pts	-0.2pts

↗は+5%以上、↘は-5%以上の変化、→は変化が±5%未満

* 2024年8月14日公表の計画値

ポイント

FY24 1-3Q 業績

- 受注高、売上収益、営業利益いずれも、3Qとして過去最高業績を更新
- 建築・産業のトルコ・Vansan社に係るのれんの減損損失（64億円）を計上したものの、増収および精密・電子の収益性改善を中心に、全体としては前年同期比で増益
- 半導体市場は、中国市場における従来の勢いが落ち着きつつある一方で、生成AI関連需要によりグローバル顧客の投資は拡大傾向

FY24 通期業績予想

- 受注高は、建築・産業とエネルギーの進捗を踏まえ、200億円上方修正
- 売上収益は、建築・産業と環境の進捗を踏まえ、150億円上方修正
- 営業利益は、建築・産業で減損損失を計上したものの、他セグメントがカバーし、全体としては据え置き

3 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

目次

当決算におけるポイント	P3	4. トピックス	
1. FY24 1-3Q連結決算サマリ		・建築・産業セグメント～Vansan社に係るのれんの減損損失計上の概要・中期経営計画の進捗	P21
・連結業績	P5	5. 補足資料	
・セグメント別	P6	・連結業績予想	P24
・営業利益増減分析	P7	・受注高	P25
・地域別売上収益	P8	・売上収益	P26
2. FY24 1-3Qセグメント別業績		・営業利益	P27
・建築・産業	P10	・受注残高	P28
・エネルギー	P11	・地域別売上収益	P29
・インフラ	P12	・サービス&サポート(S&S)売上収益	P30
・環境	P13	・貸借対照表	P31
・精密・電子	P14	・キャッシュ・フロー	P32
3. FY24 業績予想		・資本的支出、減価償却費、研究開発費	P33
・連結業績	P17	・ESG Topics	P34
・セグメント別	P18		
・営業利益増減分析	P19		

■ 略語の説明

- ・ FY：会計年度（例「FY24」は2024年12月期会計年度）
- ・ 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している
- 本資料で示す財務数値はIFRSベースで記載している

2 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

細田：それではご説明いたします。皆様、いつも当社の決算、業績にご関心をお寄せくださいますとありがとうございます。また、遅い時間にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。御礼申し上げます。

FY24 1-3Q 業績

	実績	前年同期比
受注高	6,436 億円	+452 億円 +7.6% ↗
売上収益	6,043 億円	+531 億円 +9.6% ↗
営業利益	598 億円	+28 億円 +5.0% ↗
営業利益率	9.9%	-0.4pts

↗は+5%以上、↘は-5%以上の変化、→は変化が±5%未満

FY24 通期業績予想

	今回計画	前期比	前回計画比*
受注高	8,650 億円	+444 億円 +3.0% →	+200 億円 +2.4% →
売上収益	8,420 億円	+826 億円 +8.9% ↗	+150 億円 +1.8% →
営業利益	870 億円	+9 億円 +1.1% →	-
営業利益率	10.3%	-1.0pts	-0.2pts

* 2024年8月14日公表の計画値

ポイント

FY24 1-3Q 業績

- 受注高、売上収益、営業利益いずれも、3Qとして過去最高業績を更新
- 建築・産業のトルコのVansan社に係るのれんの減損損失（64億円）を計上したものの、増収および精密・電子の収益性改善を中心に、全体としては前年同期比で増益
- 半導体市場は、中国市場における従来の勢いが落ち着きつつある一方で、生成AI関連需要によりグローバル顧客の投資は拡大傾向

FY24 通期業績予想

- 受注高は、建築・産業とエネルギーの進捗を踏まえ、200億円上方修正
- 売上収益は、建築・産業と環境の進捗を踏まえ、150億円上方修正
- 営業利益は、建築・産業で減損損失を計上したものの、他セグメントがカバーし、全体としては据え置き

3 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

それでは、2024年12月期の第3四半期の決算に関するポイントからご説明いたします。今回の決算発表を通じまして、皆様にお伝えしたいメッセージは主に3点ございます。

1点目は、今回の第3四半期連結業績の全体観としては、受注、売上収益、営業利益から当期利益まで、全て前年同期比プラスであるとともに、ヒストリカルにも第3四半期決算としましては、当社の過去最高業績であるという点でございます。期初、昨年来から比較的決算の数字としては好調さを維持してきましたが、それが維持できた比較的良い決算だったと全体的には捉えております。

2点目としましては、トルコの連結子会社であります Vansan 社に関するのれんの減損損失を今回の決算で計上しております。Vansan 社は 2021 年に M&A により当社グループの傘下に入った、建築・産業セグメントに属する子会社でございます。トルコの国内でのインフレやトルコ・リラ安、それに伴う人件費の高騰などの事業環境、経済環境の急激な変化を背景にしまして、将来事業計画の見直しを行った結果、買収当時想定していた計画との乖離が見られまして、のれんの回収可能性が見込めないと判断をいたしました。

結果的に、現在の帳簿価格ののれん全額に相当する 64 億円の減損を今回の決算で計上しております。本減損損失の影響によりまして、今回の決算において、全体的には先ほど申し上げました通り、過去最高業績ではありますが、建築・産業セグメントに限りますと前年同期比で減益となっております。

3点目のポイントは、当社の精密・電子セグメントに関係の深い半導体市場に関する当社の手触り感、実際にわれわれが事業を行っている中でどう感じているかという点でございます。ここしばらく好調で、半導体市場を牽引してきておりました中国の市場におきましては、従来の勢いに少し落ち着きが見られるかなと感じているところであります。

一方で、生成 AI 関連需要の拡大により、中国以外のグローバル顧客において投資が拡大傾向となってきた様子が見てとれます。当社の精密・電子セグメントも受注、売上収益、営業利益ともに前年同期比で増加となっております。

以上の3点が今回の決算のポイントになります。のれんの減損損失による一過性の影響を受ける建築・産業セグメントについても、その影響を除くと昨年を上回る水準で業績が推移していることから、中期的には計画の進捗という意味合いでは順調に推移していると捉えております。

以上を踏まえまして、通期の業績予想につきましても若干の修正を行っております。受注高におきまして、建築・産業とエネルギーセグメントの進捗を踏まえまして、200億円の上方修正。売上収益におきましても、建築・産業と環境セグメントの進捗を踏まえまして150億円の上方修正を、今期末の着地点に対する業績予想という観点で行っております。営業利益に関しましては、のれんの減損損失を他のセグメントがカバーしたことによりまして、プラスマイナスゼロで前回予想値を据え置きとしております。以上が今回の決算の概要になります。



1. FY24 1-3Q 連結決算サマリ

2. FY24 1-3Q セグメント別業績

3. FY24 業績予想

4. トピックス

5. 補足資料

1. FY24 1-3Q 連結決算サマリ
連結業績



(単位：億円)	FY23 1-3Q 実績 a	FY24 1-3Q 実績 b	前年同期比	
			増減 b-a	増減率 (b-a)/a
受注高	5,983	6,436	+452	+7.6%
売上収益	5,512	6,043	+531	+9.6%
営業利益	569	598	+28	+5.0%
営業利益率	10.3%	9.9%	-0.4pts	
親会社の所有者に帰属する四半期利益	349	410	+61	+17.6%
EPS (円) *1	75.72	88.87	+13.15	+17.4%
為替レート*2				
対米ドル (円)	138.02	151.14	+13.12	
対ユーロ (円)	149.52	164.22	+14.70	
対人民元 (円)	19.62	20.99	+1.37	

*1 2024年7月1日に1株を5株とする株式分割を実施。記載は株式分割後ベースに調整した数値

*2 為替レートは各四半期における期中平均レートを単純平均で表記

5 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

それでは、詳細の説明に入ります。5 ページ目をご覧ください。第 3 四半期の連結業績です。

前年同期比で説明しますが、受注は 452 億円、前年同期より増加して 6,436 億円。売上は 531 億円増加して 6,043 億円。営業利益は 28 億円増加して 598 億円。親会社の所有者に帰属する四半期利益は 61 億円増加して 410 億円となりました。その結果、EPS は 88.87 円と、前年同期比 17%増となっています。

期中平均の為替レートにつきましては、各主要通貨において前年同期比で円安となっています。為替による連結営業利益への影響額は前年同期比で 35 億円ほど、ポジティブに営業利益を増やす方向に影響しております。

1. FY24 1-3Q 連結決算サマリ セグメント別



(単位: 億円)		FY23 1-3Q 実績 a	FY24 1-3Q 実績 b	前年同期比	
				増減 b-a	増減率 (b-a)/a
連結合計	受注高	5,983	6,436	+452	+7.6%
	売上収益	5,512	6,043	+531	+9.6%
	営業利益	569	598	+28	+5.0%
	営業利益率	10.3%	9.9%	-0.4pts	
建築・産業	受注高	1,693	1,845	+151	+9.0%
	売上収益	1,618	1,727	+109	+6.7%
	営業利益	104	55	-49	-47.0%
	営業利益率	6.5%	3.2%	-3.3pts	
エネルギー	受注高	1,738	1,662	-75	-4.4%
	売上収益	1,188	1,451	+262	+22.1%
	営業利益	126	153	+26	+21.1%
	営業利益率	10.6%	10.6%	-	
インフラ	受注高	432	447	+15	+3.5%
	売上収益	379	347	-32	-8.5%
	営業利益	33	23	-10	-30.3%
	営業利益率	8.9%	6.8%	-2.1pts	
環境	受注高	582	631	+48	+8.4%
	売上収益	470	592	+121	+25.8%
	営業利益	33	51	+18	+56.3%
	営業利益率	7.0%	8.7%	+1.7pts	
精密・電子	受注高	1,527	1,840	+312	+20.5%
	売上収益	1,845	1,915	+70	+3.8%
	営業利益	271	336	+65	+24.0%
	営業利益率	14.7%	17.6%	+2.9pts	
その他、調整	受注高	8	8	-0	
	売上収益	9	8	-0	
	営業利益	0	-22	-22	
	営業利益率	1.7%	-258.5%	-260.2pts	

6 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

セグメント別の決算サマリでございます。受注につきましては、特に精密・電子セグメントが前年同期比で大きく増加しまして、また、建築・産業セグメントも国内、海外とも堅調に推移しております。環境セグメントも大型案件の受注によって増加。インフラセグメントは、排水機場向けの遠隔監視案件の受注などによって増加しております。

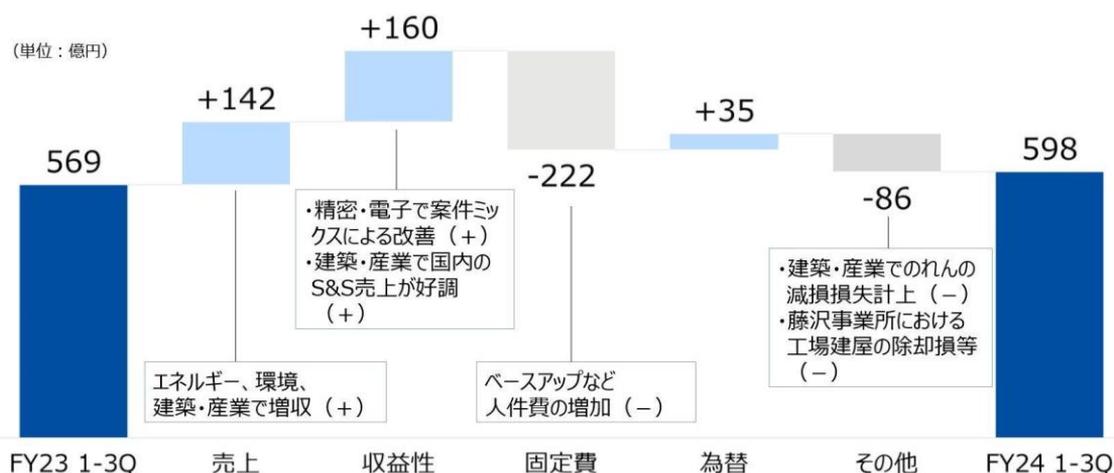
一方、エネルギーセグメントにおきましては前年同期比で市場環境に大きな変化は見られませんが、前年は大型案件の受注タイミングが3Qまでにごさいましたが、今期はそれがなく、受注タイミングの影響で前年同期比では受注は減少となっております。

全体としては先ほど申しあげました通り、前年同期比で452億円の受注の増加です。

一方、売上につきましては、インフラセグメントを除く他の4セグメントは堅調に推移しております、前年同期比で531億円の増加となっております。

営業利益につきましては、精密・電子セグメントが牽引しております、のれんの減損を反映させた上でも、前年同期比で28億円増加で落ち着いているのが3Qの結果でございます。

収益性の改善や売上増の寄与が固定費の増加を上回り増益



7 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

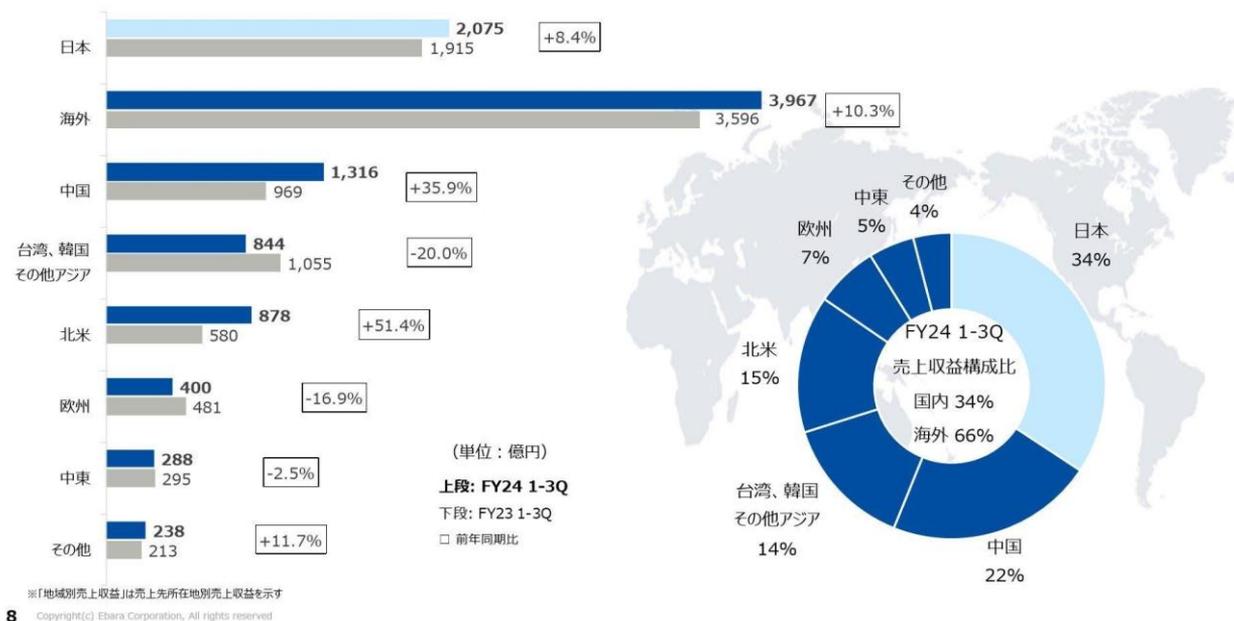
次のページは、営業利益の前年同期からの増減要因です。

28 億円の増加とご説明申し上げましたが、その要因としましては、まずエネルギー、環境、建築・産業の 3 セグメントで増収となり、その増収効果により 142 億円の営業利益のプラスです。一方で収益性に関しましては、主に精密・電子と建築・産業セグメントにおいて収益性が改善しておりまして、その成果で 160 億円のプラスとなっております。

一方で、固定費が今期のベースアップほか人件費の増加等によりまして、222 億円のマイナスファクターとなっております。あとは為替の影響で、35 億円分プラス。それから、のれんの減損の影響他を含めまして、その他で 86 億円のマイナス要因となっております。

その結果の 3Q の営業利益は、全体で 598 億円となっております。

1. FY24 1-3Q 連結決算サマリ
地域別売上収益



次のページは 3Q における地域別の売上収益の構成です。

右側のグラフの濃い青色の部分が海外で、薄い部分が国内です。海外売上比率はこの 3Q で 66% となっています。相対的に、いつもと比べて海外売上比率が少し高めになっております。

そして左の棒グラフは上段の色が今期の 3Q、下段が前期の 3Q の売上数値ですが、ご覧のとおり、国内も海外も売上が伸びております。国内は主に建築・産業と環境セグメントの売上の増加によるものでして、海外は地域別で見えますと、上がっているところと下がっているところがございますが、特に中国と北米においては前年同期比での伸びが大きくなっています。

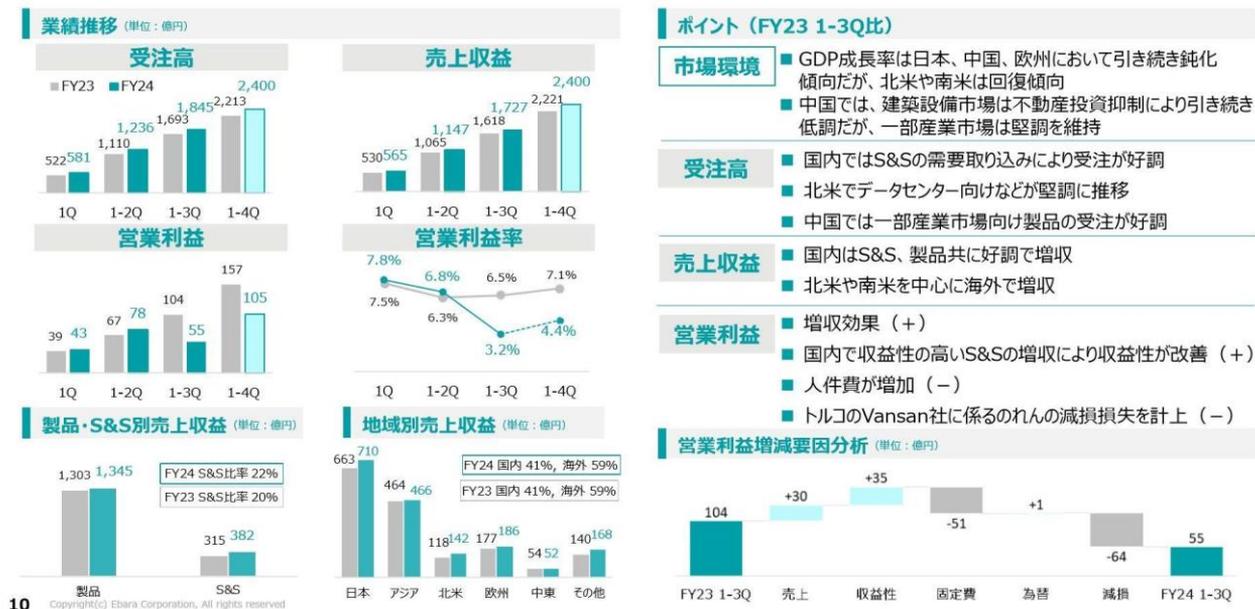
減少幅が大きいのは台湾や韓国を含む、その他のアジアです。伸びが大きかった北米は、エネルギーおよび建築・産業セグメントのインパクトが結構、大きいと思っています。また、中国やその他アジアに関しましては、精密・電子の売上動向が大きく影響した結果の数値でございます。

1. FY24 1-3Q 連結決算サマリ
- 2. FY24 1-3Q セグメント別業績**
3. FY24 業績予想
4. トピックス
5. 補足資料

9 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

2. FY24 1-3Q セグメント別業績

建築・産業



これ以降はセグメント別の業績の説明に入ります。10 ページ目をご覧ください。

まず建築・産業セグメントでございます。受注、売上は前年同期比で増加しておりますが、のれんの減損損失の影響で営業利益は減少です。

市場環境ですけど、このセグメントは GDP 成長に非常に密接に関係し、業績が変動するセグメントでございます。GDP 成長の状況については日本や中国、欧州は成長が鈍化傾向、北米や南米は

回復傾向にあるという市場環境でございました。そのような中で、当社の受注が増加した要因としては、北米において特にデータセンター向けのポンプが堅調に推移しました。

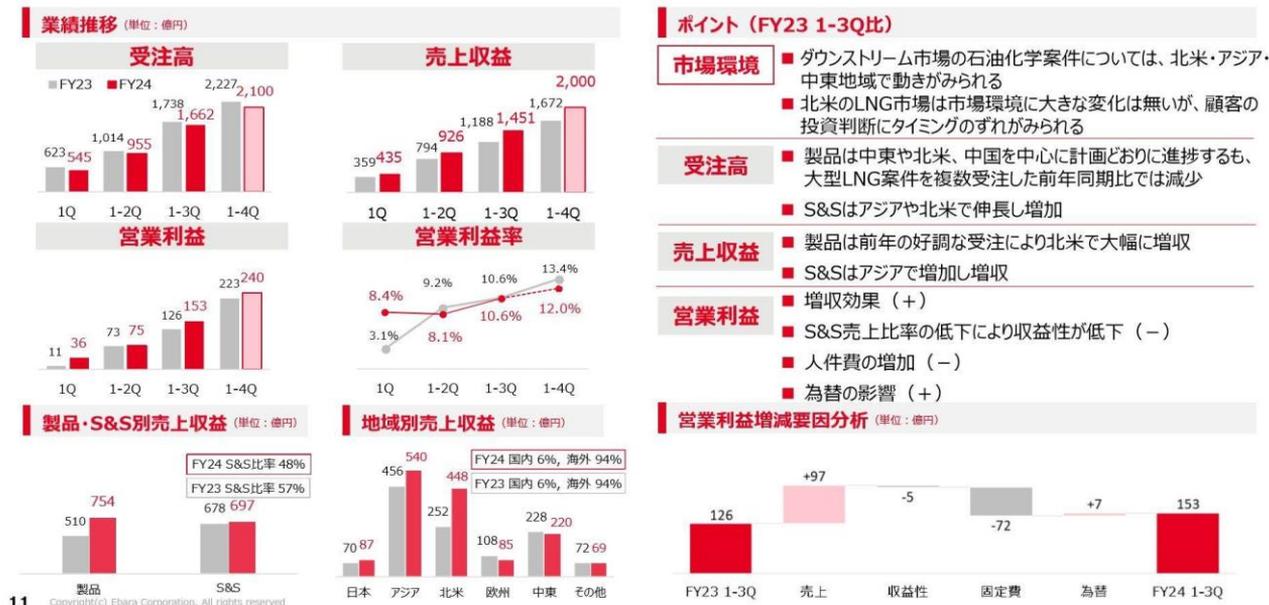
また、中国においては半導体および電子産業を含む一部の産業市場向けで、省エネ製品への需要の高まりがあり、精密・電子セグメントだけでなく、建築・産業セグメントにおいても半導体および電子産業向けのポンプの需要が高まり、その結果として引き続き堅調に推移しております。

一方で、国内も伸びております。ポンプや冷熱製品のサービスサポートの需要取り込みが奏功しております、受注、売上ともに増加した結果になっております。

営業利益は、増収効果に加えまして収益性の高いサービス&サポートの比率が、左下に書いてあります通り、増加している影響もありまして収益性の改善に寄与しております。一方で人件費などの固定費の増加と、Vansan 社に係るのれんの減損損失の影響で減益となっております。

Vansan 社の減損損失がなかったと仮定した場合には、3Q の営業利益は 119 億円で、前年同期比で増益でございました。

2. FY24 1-3Q セグメント別業績 エネルギー



市場環境のお話を先にしますと、オイル&ガスのダウンストリーム市場の石油化学案件に関しましては、北米、アジア、中東で案件の動きが見られています。市場としては活発な状況が続いております。

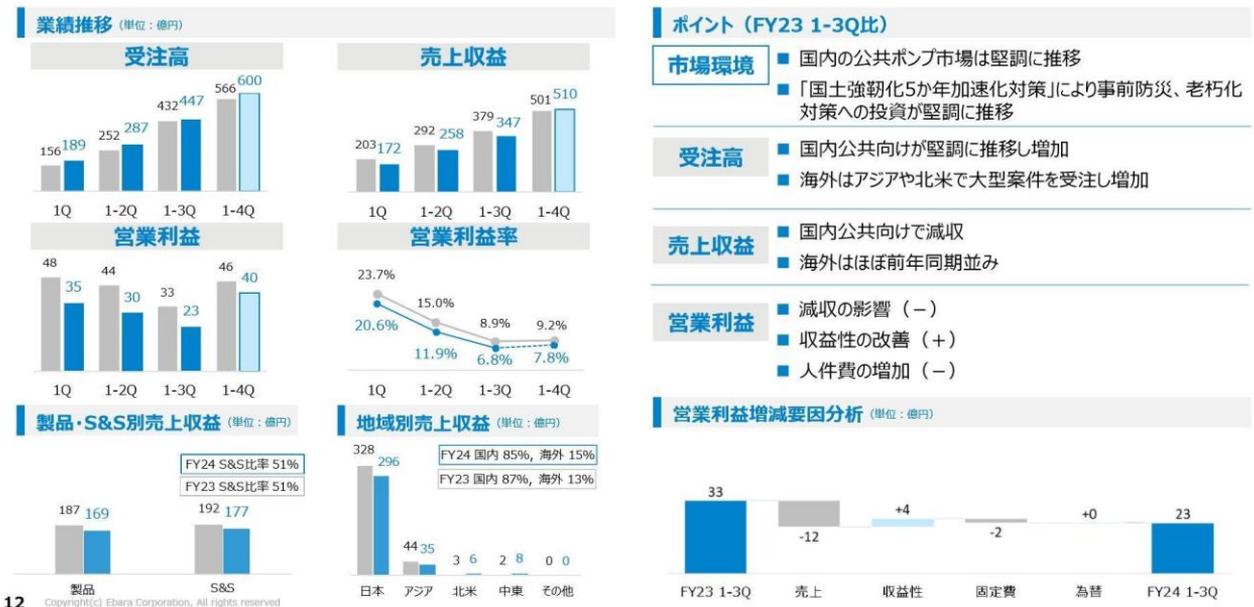
北米の LNG 市場に関しましては昨年度、非常に活況であり、大きな変化はないですが、お客様が政治的要因、大統領選の動向を見守っている結果、お客様が投資判断、Final Investment Decision いわゆる FID を行うタイミングは多少、様子見の状況が見られました。現在までのところ大きく市場環境に変化はありませんが、今期に入ってからの新たな受注は少なめになっている状況です。大統領選も終わりましたので、今後、今まで様子見だったお客様の投資判断がなされていくと思っているところでございます。

一方、受注は、中東や北米、中国で大型案件を複数受注したものの、今、申しあげました通り LNG の大型案件は前年同期には存在しましたが、今期にはこれまで存在していないという状況です。

そして売上に関しましては、昨年の製品受注が好調だったことを背景にしまして、その売上が進捗し、主に北米の LNG 案件向けの売上が大きく増加しました。サービス&サポートは前年と比べて絶対値としてはやや増加している状況ですが、それ以上に製品売上が増加しているため、サービス&サポート比率は低下しています。

営業利益につきましては固定費の増加があったものの、増収効果によって増益となっています。

2. FY24 1-3Q セグメント別業績 インフラ



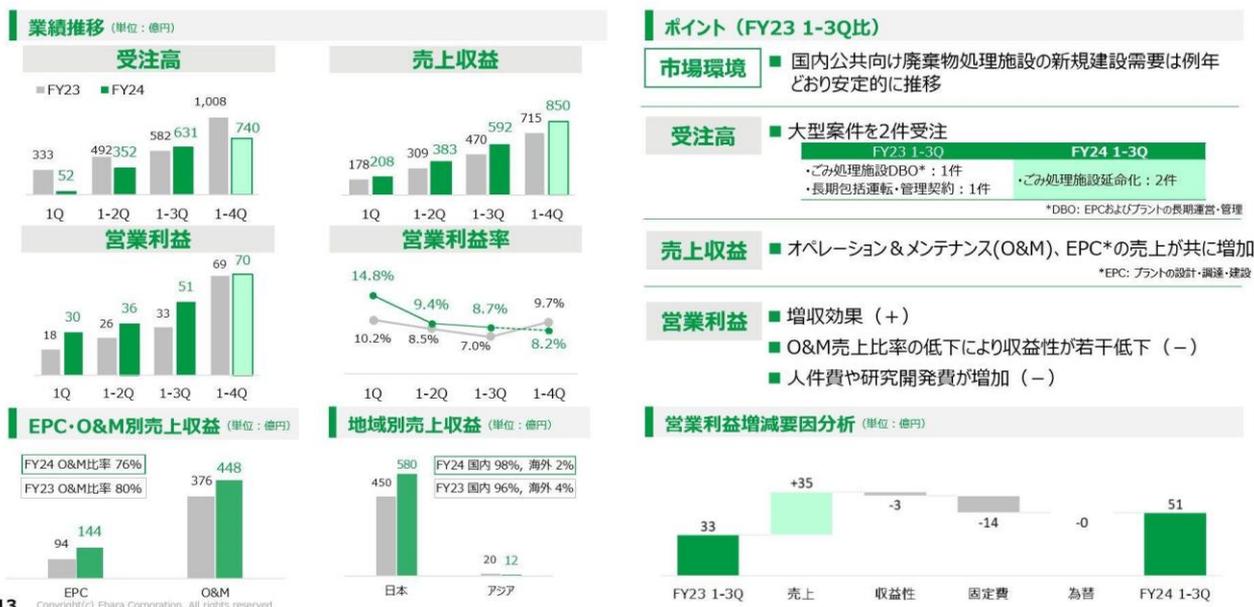
次がインフラセグメントです。受注は前年同期比で増加していますが、売上、営業利益は減少しており、減益減収でございますが、想定範囲内ではあります。国内においてポンプ設備の更新、補修に対する需要が、国土強靱化5カ年加速化対策、今期で4年目を迎えておりますけど、政策的な影響によって受注は堅調に推移しているところでございます。

5カ年加速化対策の中期目標の一つに排水機場の遠隔監視機能の整備がございますが、そのような機能の整備を中心に今期に遠隔監視案件を複数件、当社としても受注したことにより、受注は前年同期を上回っております。

売上は工事進行案件の期ずれにより前年同期を下回っております。営業利益も、主に減収の影響により前年同期比で減収減益となっております。

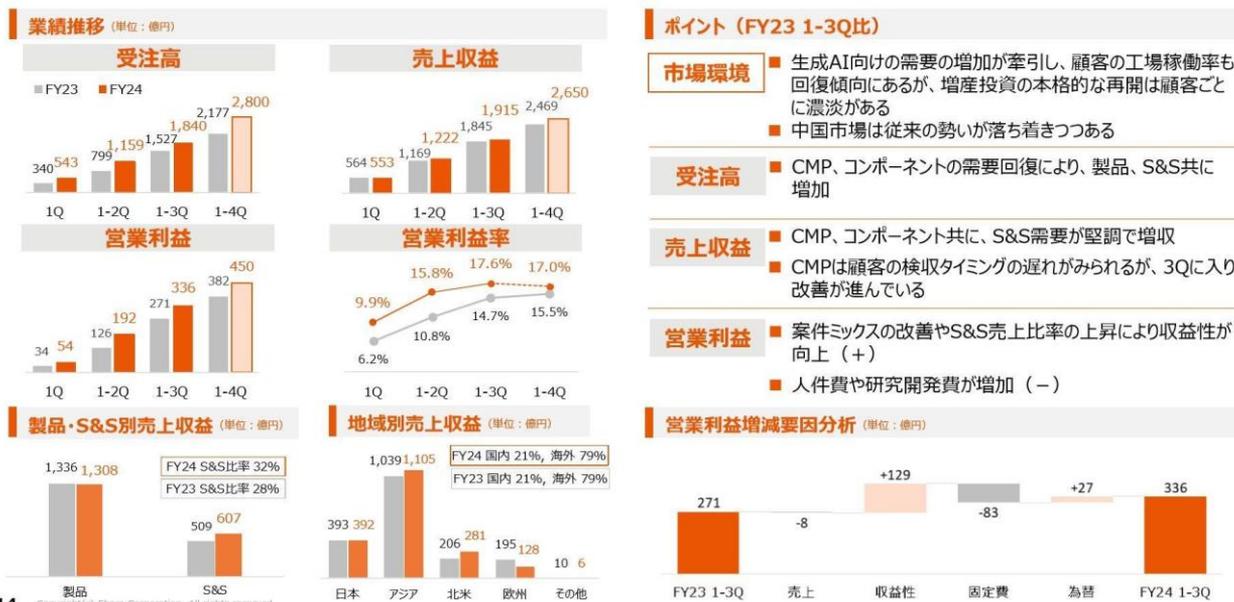
2. FY24 1-3Q セグメント別業績

環境



環境セグメントに関しましては、受注、売上、営業利益ともに前年の3Q比で増加となっております。今期は、EPC受注の谷間に当たるため、受注計画としては昨年をもともと下回る見通しでしたが、その中で3Qまでの受注については、ゴミ処理施設延命化の大型案件を2件受注したことにより、想定以上に前年同期比では増加となっております。

昨年までに受注したものの受注残が豊富に残っており、EPC、O&Mとも売上が増加したことにより増収増益となっております。



最後に、精密・電子セグメントですが、受注、売上、営業利益いずれも前年同期比で増加となっております。

半導体市場は、従来、勢いのあった中国市場に若干の落ち着きが見られる一方で、その他のグローバル大手の顧客において工場稼働率に改善が見られるほか、全体として回復基調となっております。

回復基調となった結果として、増産投資を各お客様が行うかどうかに関しては、本格的な再開はお客様ごとに濃淡がございますが、全体としては回復基調になってきているところは肌感覚で見とれます。これを受けて、当社の受注状況は前年同期に比べ、CMP、コンポーネント両市場において回復しておりますし、製品、サービスとともに増加している状況です。

売上はCMP、コンポーネントともにサービス&サポートは堅調でして、増収となっております。CMPは特に出荷済みの製品について、当社としては工場から出荷し、お客様のサイトでの検収をしていただく、プロセスアクセプタンステストのタイミングが若干、お客様ごとに遅れが生じていた状況ありましたが、特に中国市場におきまして、3Qに入ってから、受け入れが進んできています。

それを踏まえまして、営業利益については案件ミックスの改善やサービス&サポート比率の上昇により収益性が向上し、固定費の増加分をカバーしての増益となっております。

受注高 (単位: 億円)



売上収益 (単位: 億円)



15 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

15 ページ目、精密・電子セグメントにおける四半期ごとの業績推移です。受注と売上については精密・電子セグメント全体とコンポーネント、CMP の四半期推移をお示ししていますが、受注、売上ともに 1Q で底を打って、3Q の回復基調は継続しているところでございます。

受注については、CMP がグローバル顧客の需要回復を背景として、2Q から 3Q にかけて回復してきておりまして、4Q も更なる回復を想定しております。4Q で 718 億というのは少しアグレッシブに見られるかもしれませんが、このぐらいまでいってもおかしくないかなという見立てを現状ではしております。

売上については、顧客の工場稼働率の改善により、ドライ真空ポンプのオーバーホールや、CMP 装置の部品交換など、サービス&サポート需要が堅調に推移すると見込んでいます。

3Q の業績に関する説明は以上でございます。

1. FY24 1-3Q 連結決算サマリ
2. FY24 1-3Q セグメント別業績
- 3. FY24 業績予想**
4. トピックス
5. 補足資料

3. FY24 業績予想 連結業績

3Qまでの進捗と見通しを踏まえて、全社の受注高を200億円、売上収益を150億円上方修正、営業利益は据え置き

(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY23 実績 a	FY24 計画 24/08/14 b	FY24 計画 24/11/14 c	1-4Q			
				前期比		旧計画比	
				増減 c-a	増減率 (c-a)/a	増減 c-b	増減率 (c-b)/b
受注高	8,205	8,450	8,650	+444	+3.0%	+200	+2.4%
売上収益	7,593	8,270	8,420	+826	+8.9%	+150	+1.8%
営業利益	860	870	870	+9	+1.1%	-	-
営業利益率	11.3%	10.5%	10.3%	-1.0pts	-	-0.2pts	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	602	608	608	+5	+0.9%	-	-
ROIC	12.2%	11.0%	11.0%	-1.2pts			
ROE	15.7%	14.2%	14.2%	-1.5pts			
EPS (円) *1	130.72	131.68	131.67	+0.95			
1株当たり年間配当金 (円) *1	45.8	46.0	46.0	+0.2			
為替レート*2							
対米ドル (円)	140.50	140.00	140.00			-	
対ユーロ (円)	151.90	150.00	150.00			-	
対人民元 (円)	19.83	19.50	19.50			-	

*1 2024年7月1日に1株を5株とする株式分割を実施。記載は株式分割後ベースに調整した数値

*2 為替レート：FY23は四半期毎の期中平均レート実績を単純平均した値で表記。FY24は年間想定為替レートを表記

続きまして、3Qの業績を踏まえた通期の着地点に対する業績予想のご説明させていただきます。冒頭のポイントでも申し上げましたが、若干の上方修正を受注、売上においてさせていただきました。

事業環境に関しましては、今までにセグメントごとのお話させていただいた状況から、今期末までの状況は、あまり大きな影響、変化はないと思っております。そのような環境の中で2024年の通

期業績予想につきましては、受注は前回予想から 200 億円引き上げ、売上を前回予想から 150 億円引き上げております。営業利益は各セグメント間での変動はありますが、前回の開示の 870 億円を据え置きとさせていただきます。

その他の経営指標、配当の予想、または想定為替レート等に関しましては前回と同様でございます。

3. FY24 業績予想 セグメント別



(単位：億円) 発表日(年/月/日)		FY23 実績 a	FY24 計画 24/08/14 b	FY24 計画 24/11/14 c	1-4Q			
					前期比		旧計画比	
					増減 c-a	増減率 (c-a)/a	増減 c-b	増減率 (c-b)/b
連結合計	受注高	8,205	8,450	8,650	+444	+3.0%	+200	+2.4%
	売上収益	7,593	8,270	8,420	+826	+8.9%	+150	+1.8%
	営業利益	860	870	870	+9	+1.1%	-	-
	営業利益率	11.3%	10.5%	10.3%	-1.0pts		-0.2pts	
建築・産業	受注高	2,213	2,300	2,400	+186	+3.9%	+100	+4.3%
	売上収益	2,221	2,300	2,400	+178	+3.5%	+100	+4.3%
	営業利益	157	165	105	-52	+4.8%	-60	-36.4%
	営業利益率	7.1%	7.2%	4.4%	-2.7pts		-2.8pts	
エネルギー	受注高	2,227	2,000	2,100	-127	-10.2%	+100	+5.0%
	売上収益	1,672	2,000	2,000	+327	+19.6%	-	-
	営業利益	223	200	240	+16	-10.5%	+40	+20.0%
	営業利益率	13.4%	10.0%	12.0%	-1.4pts		+2.0pts	
インフラ	受注高	566	600	600	+33	+5.9%	-	-
	売上収益	501	510	510	+8	+1.6%	-	-
	営業利益	46	40	40	-6	-13.1%	-	-
	営業利益率	9.2%	7.8%	7.8%	-1.4pts		-	-
環境	受注高	1,008	740	740	-268	-26.6%	-	-
	売上収益	715	800	850	+134	+11.8%	+50	+6.3%
	営業利益	69	60	70	+0	-13.5%	+10	+16.7%
	営業利益率	9.7%	7.5%	8.2%	-1.5pts		+0.7pts	
精密・電子	受注高	2,177	2,800	2,800	+622	+28.6%	-	-
	売上収益	2,469	2,650	2,650	+180	+7.3%	-	-
	営業利益	382	415	450	+67	+8.4%	+35	+8.4%
	営業利益率	15.5%	15.7%	17.0%	+1.5pts		+1.3pts	
その他、調整	受注高	11	10	10	-1		-	-
	売上収益	11	10	10	-1		-	-
	営業利益	-18	-10	-35	-16		-25	
	営業利益率	-156.9%	-100.0%	-350.0%	-193.1pts		-250.0pts	

18 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

今、申し上げたことをセグメント別にブレイクしたものがこのページでございます。受注の 200 億円増加は、建築・産業とエネルギーセグメントにおいて 100 億円ずつの上方修正をしております。

建築・産業セグメントは国内、海外とも比較的堅調な受注状況がございまして、100 億円上方修正。エネルギーセグメントについてはアジア、中東での受注増加などによりまして、100 億円の上方修正としました。

売上については 150 億円増加、これも建築・産業セグメントで 100 億円、環境セグメントにおいて 50 億円の上方修正としました。

建築・産業セグメントは受注で申し上げた環境を反映したものでございまして、環境セグメントに関しましては、国内の EPC、O&M とも売上が増加していることによって 50 億円の上方修正としました。

営業利益につきましては、Vansan 社に係るのれん減損損失の影響で、建築・産業セグメントに関しましては下方修正としておりますが、エネルギー、環境、精密・電子セグメントでそれぞれ上方修正になっています。それらをネットしまして、全体としてはプラスマイナスゼロと、前回開示から変更なしとしております。

3. FY24 業績予想 営業利益増減分析

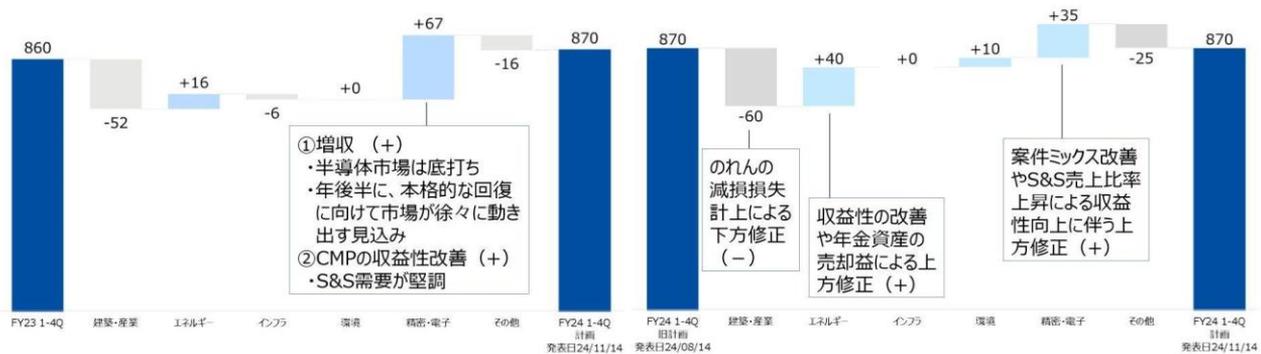


■ 建築・産業を下方修正も、エネルギー、精密・電子等の上方修正により、全社営業利益予想は870億円のまま据え置き

■ 前年実績対比

■ 8月通期計画対比

(単位：億円)



19 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

その内訳は次のスライドでございます。ウォーターフォールで、左側のグラフは前年度からの利益増減要因で、右側のグラフは前回開示の状況からの利益増減要因です。

右側のグラフでご説明しますと、建築・産業セグメントはのれんの減損損失、エネルギーセグメントは、収益性の改善と、アメリカのエリオット社において、DB から DC に年金制度を変更するにあたって年金資産のバイアウトを行いまして、その結果として想定よりも売却益が出ました。エネルギーセグメントにおいては一過性ですが、営業利益の上方修正を行っております。

精密・電子セグメントは案件ミックスの改善やサービス&サポート売上比率の上昇等によりまして、収益性が向上して 35 億円の上方修正となっております。

- 1. FY24 1-3Q 連結決算サマリ
- 2. FY24 1-3Q セグメント別業績
- 3. FY24 業績予想
- 4. トピックス**
- 5. 補足資料

4. トピックス

建築・産業セグメント～Vansan社（トルコ）に係るのれんの減損損失計上の概要



- トルコ国内外における事業環境の変化に伴い、Vansan社に係るのれんの減損損失64億円を計上、バランスシート上ののれんは全額減損
- トルコ国内外の経済的、地政学的要因により、将来事業計画が買収時の想定を下回る
- 建築・産業セグメント内における相対的な営業利益率の高さおよび欧州・アジア・中東・アフリカに向けた事業展開に際しての地理的優位性等により、同セグメントのグローバル戦略上、重要拠点としての位置づけは継続

企業価値算定に関する買収時と現状のギャップ

- カントリーリスクの増大による、将来事業計画からの現在価値算定における割引率の上昇
- 想定を上回るインフレおよびリラ安を背景としたトルコ経済の悪化による、将来事業計画の下方修正
 - ・トルコ国内市場の低迷による売上収益の減少
 - ・地政学的要因による輸出売上上の減少
 - ・人件費の上昇による営業利益率の低下

今後の事業展開

- 中期的には売上収益の拡大が見込まれる
 - ・今後の人口増加から、トルコ国内市場は高い成長率が見込まれる
 - ・トルコを起点とした欧州・アジア・中東・アフリカなど周辺国への事業展開
 - ✓豊富な販売チャネルと、他地域への近接性の活用
 - ✓価格競争力のある深井戸モータポンプは、アフリカなど、これから拡大する市場での事業拡大に必要不可欠
 - ・グループ会社とのクロスセルなど、新たなシナジーの発現

Vansan社買収の概要

- 買収時期：2021年4月買収完了
- 取得価額：107億円

3Qの決算の状況およびそれを踏まえた上で、今期着地点の業績予想の修正に関する説明は以上のとおりですが、21ページでトピックスとして、トルコのVansan社における減損損失の計上がありましたので、その背景と、Vansan社を含む建築・産業セグメントの全体観をあわせてご説明するページを2ページほど設けました。

Vansan社は、2021年に107億円で買収を完了した連結子会社でございます。同社が保有する付加価値の高い深井戸モーターポンプの事業の取り込みと、トルコという地理的、文化的に非常にユニークで欧州、アジア、中東、アフリカ地域への事業展開に際しても、優位な地理的なポジションに非常に魅力を感じ、同社の買収を実施しました。生産販売拠点を戦略上の位置づけとして重要なものとして、買収を進めてきた経緯がございます。

現時点でもそういった戦略的な位置づけにおける重要性は、Vansan社において変わるものではないのですが、将来事業計画に基づく企業価値算定において、買収時と現状との想定においてギャップが生じたため、今回ののれん減損に至っているのが率直な減損要因でございます。

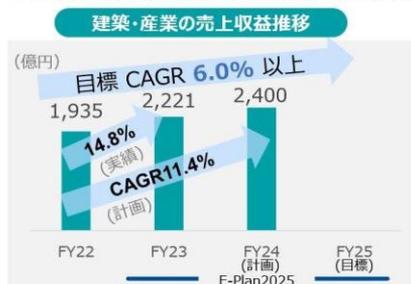
企業価値算定は、将来事業計画とそれを現在価値化するための割引率、WACCによって評価されますが、トルコという国のカントリーリスクの増大に伴いまして割引率が非常に増加して、インフレの影響もあって一時は50%を超えるような割引率になりました。

割引率の上昇とともに、トルコの経済環境の悪化による将来事業計画の下方修正が行われた結果が今回の要因です。将来事業計画もトルコ国内経済の混乱に伴う国内売上収益が期待していたほど、上がりそうもない状況です。それから地政学的要因によってもともと輸出の多い会社ではありましたが、周辺諸国、中東やロシア向けの輸出もあったものの、昨今の地政学的、政治的な要因によって期待していた計画よりは修正せざるを得ない状況です。またインフレの進行に伴って人件費が想定よりも高騰して、収益性の圧迫要因となっています。

そのような状況がございまして、今回の決算の中でのれんの減損損失を計上するという結論に至っております。

トルコの人口増加の傾向や国内市場が今後、高い成長率が本来見込まれることおよび、当社が持つ付加価値の高い製品群や地理的優位性は変わるものではないと思っています。中長期的にはそれらを最大限に活用したグローバル事業展開における戦略的な活用を推進していくことは変わりませんが、会計基準に則った投資回収という観点で見ますと、今回は減損せざるを得ない状況です。より長期的な時間軸において投資回収をしていくことになると思いますが、このような背景で今回、減損損失の計上に至りました。

- E-Plan2025において、建築・産業は成長事業の位置づけ。最終年度であるFY25の目標は営業利益率7.0%以上、売上CAGR6.0%以上
- Vansan社に係るのれんの減損損失計上により一時的に収益性、効率性指標は低下したが、事業全体では収益性改善は進んでいる
- 海外では成長が期待できる市場での拠点整備および拠点間のシナジー創出、国内ではS&S拡大施策などにより売上収益が伸長



22 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

施策の進捗状況

海外

- 成長が期待できる市場への拠点整備、拠点間シナジーの創出は順調
- 2023年の工作機械向けポンプ事業の譲受による、高付加価値事業への進出
- 2024年のナイジェリア拠点の設立、ウルグアイのポンプ販売会社買収による南米中南部地域の拠点獲得



国内

- 部材などのコスト増加に対しては、価格転嫁を実施
- EBARAメンテナンスクラウドを活用したS&Sにより収益が堅調に推移



次のページで、Vansan社を含む建築・産業セグメント全体に関する状況を中期経営計画の進捗をご説明しておきたいと思っております。

今期はVansan社の減損で営業利益率などにおいて目標を下回りますが、今回、のれんを全額減損したことも踏まえて、来年度以降はある程度、元に戻ってくるだろうと考えています。

今回の中期経営計画、E-Plan2025において、建築・産業セグメントは成長事業と位置づけておりました。2025年度において営業利益率7%以上、売上のCAGR6%以上の目標を設定しております。

先ほど説明しましたとおり、のれんの減損損失によりまして、収益性、効率性の指標は一時的に低下する見込みではございますが、一方で、左側の図に示しますように、同セグメント全体の売上、営業利益率はともに、中計最終年度の定量目標を達成すべく順調に伸長していると理解しております。

一方で、定性的にも必要なアクションを着実に実施してきておりました。海外での拠点の整備の状況は、前中計期間の2020年から2022年までの間に8拠点の新規設備が完了し、今中計期間に入ってから、昨年度2023年に1拠点、今期になってからもアフリカのナイジェリアおよび南米のウルグアイに拠点整備が完了しております。これらの拠点を活用して今後の成長が期待される市場で事業拡大を行っていくという、戦略的な定性的な施策についても順調に進捗しているところがございます。

一方で国内に関しましても、サービス&サポートの拡大施策などにより売上が伸長している状況もちろんですが、新たな戦略として、お客様のサイトにおける製品の運転状況を遠隔監視するための荏原メンテナンスクラウドという新たなプラットフォームを導入しまして、常時の監視を実現するための製品へのセンサーの設置等が着々と進捗しております。ゆくゆくは運転データを用いたソリューションビジネスの展開をするための基盤構築が着々と進んでいるという定性的な施策の進捗です。今回、Vansan 社に係るのれんの減損損失という話がございましたが、事業セグメントとしての大きな進捗としては順調だと捉えているところでございます。

私からの説明は以上でございます。